種が含まれている．たとえば，ゲンゲ科（p. 95）のうち，この海域の底びき網調査で採集された標本をもとに報告されたワカタカヘビゲンゲ，ダイダイヘビゲンゲ，キタガワヘビゲンゲ，そしてカワリヘビゲンゲが挙げられる．また，八戸沖で採集された1標本にもとづき報告されたメルルーサ科のシロガネダラも初めて日本の図鑑に掲載された（p. 37）．実はこの写真の標本は，東北沖からは2番目の記録となる（BSKU 76288，標準体長492 mm，2005年10月12日に八戸沖の水深250–300 mで漁獲され，本書の著者の一人である石戸芳男氏が採集．標本は高知大学理学部に所蔵）．このように本書は新たな情報を含んでいるが，それらについての解説はない．また，「幼魚である」など大きさの目安の記述がある少数の種を除いて，各種の写真標本の大きさや最大体長，写真標本の所蔵場所や研究機関の登録番号の情報がないことは残念である．さらに，本書は一般の人には高価すぎる．購入対象者がかなり限定されてしまうこのような本では，しかたがないことかもしれない．しかしながら，これらの点を差し引いても，東北太平洋沿岸から沖合にすむ魚類を船上や漁港で把握するためには，必携のフィールド図鑑であることに間違いない．

なお，本書の訂正すべき箇所と本書出版前後の追加情報は次の通りである：p. 39 サガミソコダラはミサキソコダラ；p. 42のイトヒキイタチウオの学名はクマイタチウオとの取り違いで，*Homostolus acer*が正しい；p. 57 のアラメヌケの学名は *Sebastes melanostictus*へ変更された；p. 97のシロゲンゲの学名は*Bothrocara zestum*に変更された；p. 107のクロマグロの学名は*Thunnus orientalis*へ変更された；p. 108のアラメガレイの写真はタマガンゾウビラメ；p. 113のメイタガレイはナガレメイタガレイ *Pleuronichthys japonicus* Suzuki, Kawashima and Nakabo, 2009（学名の情報は日本魚類学会ホームページを参照）．

参考文献

尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部　衛（編）．1995．北日本魚類大図鑑．北日本海洋センター，札幌．391 pp.

岡村　収・尼岡邦夫（編・監修）．2004．山渓カラー名鑑日本の海水魚．第3版．山と渓谷社，東京．784 pp.

（遠藤広光　Hiromitsu Endo：〒780–8520 高知県高知市曙町2–5–1　高知大学理学部海洋生物学研究室　e-mail: endoh@kochi-u.ac.jp）

図書紹介　New Publications

魚類学雑誌 57(1): 85
2010年4月26日発行

干潟の海に生きる魚たち—有明海の豊かさと危機．—日本魚類学会自然保護委員会（編）／田北　徹・山口敦子（責任編集）2009．東海大学出版会，秦野．256 pp. ISBN978-4-486-01818-6．3,200円（税別）．本書は，2006年10月に，静岡県コンペンションアーツセンター・グランシップで行われた市民公開シンポジウム「干潟を守る—有明海をどう再生させるか—」の内容をまとめたものである．田北　徹・山口敦子の両氏を中心に14名の研究者が，有明海やその周辺水域の特異な自然とともに，ムツゴロウ，エツ，ヤマノカミ，アリアケヒメシラウオ，ウシノシタ類，サメ・エイ類などの多様な魚類の生態・生活史を紹介している．さらに，著者らはフィールドで得た最新のデータに基づいて有明海が直面している様々な課題も紹介し，それらを解決するためのヒントをそれぞれの立場から示してくれている．長年にわたり有明海の自然や漁業を見てきた研究者の見解だけに説得力がある．諫早湾干拓にはじまる有明海異変の問題に関心のある方には必読の書であろう．有明海に限らず，内湾や汽水域の環境保全や再生に興味がある方々にも，お薦めしたい一冊である．

（加納光樹）

Fish reproduction.—M. J. Rocha, A. Arukwe and B. G. Kapoor, eds. 2008. Science Publishers, Enfield (NH). xiii+629 pp. ISBN978-1-57808-331-2．本書は魚類の生殖に関する生理学，生態学的な諸問題から，環境汚染や水産増養殖に関する問題など，幅広い内容を網羅している．各章のタイトルを見ると，卵黄形成，卵成熟，ゴナドトロピン，性ステロイド，性フェロモン，胎生，配偶システム，繁殖戦略，エネルギートレードオフ，親による子の保護行動，性分化，サメ類の繁殖生態，化学撹乱による雌化，雄性ホルモン撹乱の分子マーカー，増養殖，冷水性海産魚の養殖，などといったタイトルが並んでおり，最新のトピックス18編を42人の著者が分担執筆した1冊である．全体を通じた内容に若干まとまりが見られないのは，各著者がそれぞれの専門分野について書いたトピックを編集したためであろうか．読者の専門分野や興味と重なる章があれば，一読をお勧めする．15,000円程度で入手できる．

（古屋康則）